

平成28年度

# 事業計画書

社会福祉法人 微笑福社会  
野登ルンビニ園  
ルンビニ児童館

## 1. 基本方針

1 1年目の今年度、職員が「教える」から「見せる」保育を理解し出し、子ども達の想いや意見を拾いながらクラス運営を行うことが出来るようになり、子ども達の雰囲気も随分変化してきた。今までの枠に入れながら教えるやり方ではなく、自分で気付きやる気を起こす保育をアクティブラーニングやチーム保育に確実に繋げて行く一年としたい。

引き続き、職員の育成に力を入れ、チーム保育がさらに進むよう園内、園外共に研修も充実させる。

## 2. 現況報告

今年度の園児数は74名と定員を上回ってスタートできた。地元野登の子どもがほとんどだった昨年度に比べると他地区の子供も増え、新入園児は21名(0歳児3名(4月、7月、10月入園)1歳児8名、2歳児3名、3歳児7名)。

集団生活が可能でない子どもも数人居るが、あくまでもクラスの一員として引き続き社会性を身につけること、集団に問題なく入れるようなかわりを続ける。

土曜保育の母子、父子利用が定着し始め、朝夕だけでは不足な聞き取りや、不安感のフォロー、家庭での保育の方法や困り感解消の方法をうまく伝えることに加え個別療育的かわりも続けたい。

一時預かりでは昨年新たに設定した一号認定コースに2名の申し込みがあり、年少、年中で保育がスタートした。さらに地元で保育園への入園を希望していても母親が仕事をしていない為お引き受け出来なかったお子さんも園で受け入れることが出来るよう、今まで意見を頂いた方々の協力を頂き、野登に周知していきたい。

ルンビニ児童館では学年が上がるにつれ手伝いや遊びを上手く下級生に伝えたり見せたりすることが出来るようになり、子供同士でトラブルを解決出来るようになってきた。また夕方の延長保育の時など、小さい子供をさりげなく気遣う姿も見られ、人間形成にはとても役立っているのを感じる。さらに自ら色々なことに取り組めるようなやる気と達成感を体験させ、社会人として困らないための基礎作りにつながればと考えている。

園児数(一時預かり、一号認定児童含む)

4月1日現在

園児数	0. 1才	2才	3才(年少)	4才(年中)	5才(年長)
4月申し込み	9	13	16	20	17
年度最終予想	13	15	20	21	18

児童館預かり児童数

4月1日現在

児童数	1年生	2年生	3年生	4年生	5.6年生
通年申し込み	10	5	3	4	1
夏休みのみ	1	2	1	0	1
緊急(単発)			0	0	0

3. 保育事業計画

幼児期に出来るだけ多くの経験をさせたいという理念に加え、なんとか形になってきたチーム保育や昨年度から意識をし始めたアクティブラーニングを定着させる為、個々及び各クラス内、以上児・未満児、全体での連携や会議・報連相をうまく使いこなせるようにした上で、子ども達の思いを汲み、突発的な活動にも対処出来るよう、職員の意識向上に力を入れたい。

また、子ども達の身体作りを第一に考え、立つ・座る・歩くことの指導を行い歪みのない心身育成を促すことで、学ぶことへの意欲を自ら感じられるようなかわりを意識する。そのためにロールフィングの指導を取り入れる。

4. 児童館事業計画

通常保育は放課後の短い時間で宿題、ドリル等をさせる時間と遊ぶ時間のメリハリをつけながら、生活習慣を正しく保つ経験を積み自然に身につけさせる日常とし、今まで以上に保育園との連携や自主的なお手伝いを重視し、長期休みはそれに加え楽しいイベント等で夏・年末年始の思い出作りや地域の文化や歴史に興味を持たせるような活動を取り入れる。

5. 給食及び食育計画

給食は亀山市の献立の下今までどおりとするが、調味料(味噌、醤油、粉末だし、砂糖等)は無添加のものを使用し、保護者にも添加物の影響等を十分伝え、情報過多かつ情報隠蔽が横行するこの時代に自分の考えで子どもの口に入るものを正しく選べるような啓発をしていく。実際、昨年度の10月から取り入れている調理法「重ね煮」で砂糖の量が1/3～約半分に減らすことが出来た。子ども達が落ち着いてきたのも無関係ではないであろう。

子ども達への食育指導では、昨年度まで頻繁に行っていた「モグキッズ」等のイベントで教えるやり方だけではなく、日常の生活の中で自然に知らしめることを意識し、「正しい食事のマナーを身につけ感謝の気持ちを持つ」「栽培や収穫、クッキングを通して五感を育てる」という二つのテーマに基づきその

中で育まれる子どもの感性を大切に育衣食住を通じての「文化」を伝える基礎を作る。それだけに保育士の正しい見方や気づきが求められる為、調理室との連携をしながら子ども達に丁寧に関わって行く。

## 6. 健康衛生計画

園児に対しては、毎月身体測定をし、生育を確認する。

手洗い洗剤は松の樹液と水だけで作られた自然派のものを使い経皮毒をなるべく避ける。感染症対策として、空気洗浄にはアロマオイルや松・もみなどのチンキを散布する。

ポリリズムに関しては、塩素からくる肌荒れを考え、また業者のメンテナンスがストップしたことも含め使用継続か中止かを検討していく。

## 7. 安全対策計画

毎月の避難訓練の際、新たに気付いたことや考えられることを常に検討し、話し合い、訓練に慣れてしまわないよう意識する。  
また、遊具の使用、散歩時の危機管理等、常に考えながら保育をしながらも、安全第一に偏りすぎること子ども達の自然な欲求を阻害しないよう留意する。